



## 熱気に包まれた子どもたちの発表会

2日(土)に年中さん、9日(土)に年長さんの劇の発表会があり、保護者の皆さんには、子どもたちの活躍の様子をご覧いただき有難うございました。年中さんは、1年前の年少の劇遊びから一歩踏み出し、自分が選んだ役を、友達と簡単な言葉のやり取りをしながら、楽しく演じることができました。大勢の前での発表に慣れるために、年少・年長さんをお客さんに招いての練習でも、同じ幼稚園の仲間であっても、かなりの緊張感が見られました。ましてや、大勢の保護者の方が、舞台近くまで迫って見ておられるとあっては、日頃、元気な子どもたちでも、ナーバスになっていたようです。

子どもたちは、それぞれの役を演じる中で、隣の友達に、こそこそと分からぬように(?)セリフを教えたり、立つ位置を教えたりしながら言葉のやり取りし、話を進めていくことができました。

目標の一つにしていた「発表会に楽しく取り組む中で、クラスの友達と目標に向かう楽しさを知る」は、達成できたようです。

年長さんは、流石に、去年の経験があるだけに、台詞も演技も見ごたえがありました。発表する声ののびのびしていました。幼児期の1年の成長がこんなにも大きな差があるのかということが分かった感じがします。

さて、子どもの頃の押し入れのイメージは、悪いことした時に罰として反省するために押し入れられ、狭くて恐~いところでしたが、筑女保育園の押し入れは、楽しいところとして演じていました。

裸の王様の話は、子どもの頃に必ず読むお話だったでしょうから、劇の内容がスーッと入ってきて、分かり易かったと思います。

2クラスとも、劇の内容に合わせた衣装や舞台背景など工夫されたこともあって、子どもたちはその役になりきって、楽しく演じていました。鑑賞された全ての保護者の皆さんが深い感動を覚えられたことと思います。



## 本好きは幼児期から

～青沼先生の読み聞かせ講座より～

図書ボランティアのお世話で、青沼先生による絵本講座が、14日に開かれ、40名のお母さん方が熱心に耳を傾けられました。中には、熱心にメモを取られる方を見ることができました。



話の導入では、つい難しく堅苦しくなりがちな科学の内容も、絵本で分かり易く理解させることができるということを「どんぐり かいぎ」の絵本を基に、森の動物と植物の共生について話をされました。皆さん、成程と感心されていました。

先生の話によると、幼児期における子どもたちは食べ物や動物、乗り物の絵本を好み、その種の絵本なら言われなくても進んで読むそうです。幼稚園の図書室にもたくさんあるので利用してほしい、と。

そして、先生ご自身が、担任時代に新入園児を受け持ったときは、必ず「おにぎり」を読んで聞かせたとか。内容が、簡潔・明瞭であるため、子どもたちに人気があり、ほぼ毎日のように読んでとせがまれたそうで、お母さん方にも「おにぎり」を読み聞かせながら、絵本の紹介をされました。

また、子どもたちにとって、小学校の低学年までは、保護者がしっかりと読んで聞かせること。幼児期に文字は読めても、ストーリーとして読みこめていないので、考えるところまでは至っていないと。考える力をつけるためには、まずは、聞く力をつけること。つまり、「聞く力→読む力→読み込む力→考える力」の4階層を経ることが大切であるということでした。大人は、我が子が文字を読めるようになると、一人でも本を読めるようになると勘違いしがちです。先生のお言葉の通り、少なくとも、幼稚園を卒園するまでは、保護者の方でしっかりと読み聞かせし、聞く力を育てたいものです。

参加された保護者の方が、私に、「この幼稚園で読み聞かせがあったおかげで、中学生になった長男が、活字文化に親しみ、漫画を読まずに、読み物を読んでいる」と話されました。本園では、読み聞かせに一層力を入れ、子どもに聞く力をつけ、理解力や思考力などの基礎を育てたいと思いました。